

日本におけるエボラ出血熱への備えを強化するためには、地域における初動、保健所や自治体との速やかな連携による専門医療機関へのうたがいの患者の移送がカギとなります。また、うたがいの段階からの人権への配慮、および医療者等への2次感染予防の徹底が重要です。本セミナーは、参加者がEVD、実際におこりうるシナリオ、患者対応を想定した個人防護具(PPE)についての基本を学び、その後の医療機関や地域での研修や訓練につなげていくことをねらいとしています。

## 【開催日時・会場】 各回とも内容は同じ

1回目 2014年11月13日(木) 13時～17時 (開場12時30分)

市ヶ谷TKPカンファレンスセンター5階

2回目 2014年11月25日(火) 9時～13時 (開場 8時30分)

国立国際医療研究センター 研修センター棟 5階 大会議室

## 【対象】

第一種感染症指定医療機関の医療者 等

## 【参加費用】

無料

## 【申し込み】

事前登録性: 各回 定員 70名(先着順) 一医療機関からの最大申し込み定員は3名

申し込み宛先: [idsupport@hosp.ncgm.go.jp](mailto:idsupport@hosp.ncgm.go.jp)

メールのタイトル: EVD対策研修 [ ]日参加希望 ★[]内に13日または25日を記載

メール記載事項: ①申し込み医療機関名、②参加者名と職種(全員分)、

③申込代表者連絡先(メールアドレス、電話、FAX、住所)、④質問事項(任意)

★事務局より参加可否についてメールで返信させていただきます。

## 研修プログラム(予定)

全体進行: 大曲貴夫・加藤康幸(国立国際医療研究センター) 講師: 国立国際医療研究センター 医師・看護師 等

### 第一部 エボラ出血熱流行への備え

講義1: 新興感染症への日本の医療の備え

講義2: EVDおよび出血熱ウイルス診療の課題

### 第二部 机上訓練 初診から専門医療機関への転院

うたがい症例の診療から患者の移送、診断までを、シナリオをもとに、そのポイントについて学びます。

### 第三部 医療機関における2次感染予防

個人防護具(PPE)の着脱のポイント、院内における訓練のポイントを学びます。

### 【インターネットでも学べます】

遠方の方のため、本研修の内容の一部をe-learningコンテンツとして公開予定です。

公開は12月より1ヶ月間を予定しています。

視聴方法やその詳細については、国立国際医療研究センターの国際感染症センターホームページでアナウンスをいたします。視聴は無料です。

<http://www.dcc-ncgm.info>

事務局: 国立国際医療研究センター 国際感染症対策室 (担当: 牧野・堀) 内線4413または4483

メール [idsupport@hosp.ncgm.go.jp](mailto:idsupport@hosp.ncgm.go.jp)

主催: 独立行政法人 国立国際医療研究センター 国際感染症センター

平成26年度 厚生労働科学研究費補助金 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業「一類感染症の患者発生時に備えた治療・診断・感染管理等に関する研究」代表 加藤康幸(国立国際医療研究センター)

平成26年度 国際医療研究開発事業「医療機関等における感染症集団発生時の緊急対応方法の確立及び対応手法の普及・啓発に関する研究」代表 大曲貴夫(国立国際医療研究センター)